

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt -)+ (Enter -)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいの里の理念を朝礼時に職員で唱和し、それに基づいた関りができるように努めています。1)入居者様中心の医療・看護・介護 2)地域社会への貢献 3)研究心と向上心を持つ 4)和を尊ぶ	毎朝の朝礼や会議の場で理念を唱和。全職員が入職時に理念を暗記しています。玄関前に掲示もしており、理念に沿った適切なサービスを提供しています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設に囲まれているため、交流はほとんどありません。ですが、ふれあいの里全体での夏祭りでは地域の方と一緒におでん作りをし、地域の方が関わって下さっています。	法人全体の夏祭りに地域住民がボランティアとして協力してくれたり、地域主催のお花見会にホームから参加しています。また、散歩の道中での交流なども盛んに行われています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいの里そのものが地域に根付いた運営を行っており、認知症サポーター養成講座などの開催がありますが、事業所の取り組みはできていません。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて日々の生活・活動を報告しグループホームでの生活を知って頂いています。頂いた意見を職員会議で報告し、おやつ作りの取り組みに再挑戦することができました。	2ヶ月に1回、定期的開催しています。地域の代表、入居者家族、市職員、地域包括支援センター職員などが集まり、ホームがより良くなるような話し合いや活動報告などが行われています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他にも天理市のグループホーム同士の交流会に参加させて頂いています。そこで、わからないことなど気軽に相談させて頂きアドバイスを頂いています。	市内のグループホーム5施設が集う交流会を市職員の参加の下で開催しています。その場で制度の説明を受けたり、質問を行ったりしながら協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ふれあいの里全体でステップアップ研修があり、身体拘束について学び意識しています。玄関の施設は夜のみ行っていますが、日中は自由に出入り出来るよう支援しています。	現在、身体拘束は行っていません。玄関も日中は自由に出入りできる状態となっています。また、職員の入職時、二年目、三年目にそれぞれ身体拘束に関する研修会を行っています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉での抑制などにも目を向け、話し合いや職員指導を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の際、権利擁護に関する制度の説明を受けています。また、ホームでも成年後見人を利用されている方が1名いらっしゃいます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を以って説明を行い納得していただいておりますが、不十分なこともあり伝わっていないことも見受けられました。面会時にはお困りのことなどないかお尋ねしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内、法人内、外部の方を招いた第三者委員会を設置しており、館内に掲示しています。また、今年度は家族様と入居者様にアンケートを実施しました。	アンケートを実施したり、面会時や運営推進会議等の場で意見を聴取し、運営に反映させています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員会議、年2回の個人面談を行い、意見を聞く機会を設けています。また普段からも気軽に話せる雰囲気は作り意見を聞くようにしています。	月2回の会議や年2回の個人面談で職員の意見を聴取しています。また、管理者が職員の表情や雰囲気などの変化を察知し、随時の面談なども行っています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能給の導入や運営目標を達成すると報奨金制度もあり、個々がやりがいを持って働ける環境を築いています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ふれあいの里全体にステップアップ研修があり、参加出来るよう勤務調整を行っています。また、外部研修にも参加する機会を提供しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ステップアップ研修の参加時に、他施設の職員との情報交換など行っている。また、市内のグループホーム同士の交流会では入居者様との行き来もあり、刺激を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様、家族様との面談の時間を大事にし、それぞれの意向を反映出来るように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意向をしっかりと聞き取れるよう努めています。家族様に代わって支援させて頂く思いです。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入居することがご本人にとって一番いいのかと、何をまず考えています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を家族の一員のような思いで接していますが、線引きをしないと、いけない所もあり難しいです。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を伝え家族様とのコミュニケーションを密にし、情報を共有しながら家族様に出来ることを考え、相互から支援できるように努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	家族様のご要望を聞き、可能な限り外出のお手伝いなど支援させて頂いています。	近所の知人の面会を積極的に受け入れており、昔馴染みの美容院等にも家族の協力を得て通っています。また、希望される場所へのお手伝いはいつでも出来る旨も家族に説明しています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染の関係が出来ていて、時折衝突も見られますが、職員は中立の立場を守りながら関わっています。また、話し相手は少なくとも個々の状態に配慮しながら尊重した関りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ふれあいの里内での転居や入院の場合は面会に行かせて頂いたり、ご家族様とお顔を合わせる事もあり、その後の様子などお聞きしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の性格や生活歴に配慮してその人らしい暮らしが出来るように努力しています。	入居前に思いや意向の聴き取りを十分に行い、趣味(編み物、書道等)の継続が行えるよう配慮しています。また、日常会話や家族の面会時にも把握に努めています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様から聴取していますが、面会の度に複数のご家族様からも情報を得るようにしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居の際には、出来ること、話されたことなどを書き留め職員が共有できるようにし、状態の把握・職員間の連携に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の意向をもとに目標を持ち、達成のための状態の観察に努めています。職員会議でもケアのあり方について話し合いを行っています。	毎月のケア会議で入居者や家族の意向を踏まえた計画となるよう話し合っています。計画は3ヶ月に1回見直しを行い、長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月に設定しています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体の記録と個人記録をとり、職員1人が3人の入居者様を担当し、状態の変化時、および定期的に再アセスメントを行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況を勘案して原則以外の支援も検討・実施していますが、十分とは言えません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの導入は行っていますが、他の地域資源は活かせていません。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	週2回主治医の往診と、敷地内にある病院との連携が出来ています。	隣接する系列病院の主治医の往診が週2回あり、緊急入院も含め24時間体制の連携が図られています。入居前のかかりつけ医に受診することも可能で、その際の送迎支援なども必要に応じて行っています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護師、主治医との連携を密にし、早期受診を心がけています。些細なことでも気になることがあるときは電話にて対応して下さっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の病院との連携を密にとっています。病院のカンファレンス時には参加させて頂き、状況把握をしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に先のことも考えて頂けるように話しています。また、主治医からも説明の時間をとって頂いたり、随時、相談しながら意向を確認しています。	同一法人内に大病院や複数の福祉施設があるため、重度化や終末期を迎えても、入居者や家族の意向に応じた柔軟な支援を行うことが可能となっています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や個々にて指導を行い、急変に備えています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害委員会の設置があり、ふれあいの里全体での協力体制が出来ています。夜間想定をふまえて、年2回の訓練を行っています。	年2回、夜間を想定した避難訓練を実施しています。また、隣接する同系列の病院や福祉施設との24時間の協力体制も構築できています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し 誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇については、ふれあいの里全体で取り組みを行っています。朝礼時に2か月に1回変わる標語を唱和し、個々に思い当たるところはないかなど考えさせられています。	職員から公募して選ばれた人権尊重に関する標語を掲示および唱和しています。職員の言葉かけや対応もさりげなく優しさに溢れたもので、日頃から入居者を大切にされていることが確認できました。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらが誘導するのではなく、ご本人に考えて頂くよう、ご本人の言葉を聞けるよう努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望が実現するように話し合いを行っています。その日の会話からアクティビティを見つける努力もしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回散髪屋さんに来て頂き、髪を整えてもらっています。家族様が馴染の美容院へお連れして下さる方もおられます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、献立・食材調達 調理をすべてグループホームで行っており、買い物や下ごしらえなど入居者様の出来ることは積極的に行っています。	野菜の皮むきや食材の買い出しなどを入居者と職員と一緒にしています。遠足や行事の時にはお弁当を注文することもあります。おやつ作りなども実施し、食を楽しむ支援を日常的に行っています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は摂取量を知るために記録に残しています。栄養のバランスは献立立案時に考慮しています。水分は、なかなか飲んでいただけないので、寒天を作り工夫しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを実施し状態の確認をしています。ご本人に出来るところまでしてもらい、後に職員が補っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導と随時のトイレ誘導を状態に合わせて行っています。全く立位が出来ない方も日1回はトイレに座って頂き、トイレで排便をされています。	トイレでの排泄や残存能力の活用に注力されており、安易に車椅子に頼ることなく、歩行介助によるトイレ誘導を行っています。また、立位が取れない入居者も介助によりトイレに座っていただき、便通を促しています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・食事・水分と個人に合わせた管理と薬についても主治医と検討しています。また、寒天を食べて頂き、便通を意識して頂いています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はユニット毎に曜日を設定しています。時間帯も勤務時間に合わせた設定ですが、ご本人様の希望に沿い、ゆっくり入って頂けるよう順番など配慮しています。	週3回入浴を実施し、入居者の希望や性格に応じ、順番などを考慮しています。冬季には柚子風呂なども行い、入浴を楽しむことができるような支援に努めています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のリズムがつけれるように配慮しながら、状態によって臥床を行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の怖さや副作用について、職員個々に話をしていますが、入居者様全員の把握をしているかは難しい。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態に合わせて個々に合った関りが出来るように努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に行きたいと言われたときは、出来る限り対応させて頂いています。近隣への散歩や天気の良い日は玄関先に出ています。家族様とも職員が連携して希望するところへの支援を行っています。頻繁ではありません。	日光浴や散歩が日常的に行われています。また家族と合同で、お花見、いちご狩り、弁当持参の遠足など、入居者の生きがいとなるような外出支援も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持っておられる方が1名いらっしゃいますが管理はしていません。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話要求があればかけて頂いています。ご兄弟からも気軽にお電話の対応はさせて頂いており、電話口に出て頂いています。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは季節によって飾り物を替え、季節の花や景色の写真を掲示しています。写真は実際に行った時のことを話されたり、大変喜ばれています。</p>	<p>天井や壁に木目が多くとても落ち着きます。リビングには写真や手作りの作品などが飾られ、廊下にはゆったりとくつろげるソファやテーブルなども設置しています。間接照明も柔らかく、大きな窓からは木々の緑を楽しむことができます。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファに座りテレビを観たり、自由に行き来できるように努めています。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の物品はカーテン以外は家族様に準備して頂いています。馴染のある物を持ってこられたり、少し寂しい場合は、こちらから家族様にお声をかけさせて頂いています。</p>	<p>思い思いの愛用品や趣味の道具などが持ち込まれ、コレクションにはお気に入りの写真や作品などが飾られています。希望があれば家族の宿泊も可能で、簡易ベッドも用意されています。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>他の入居者様との関係性などを考慮しながら自立支援に努めています。</p>		